

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 7 年 2 月 12 日 (2025.2.12)

【公開番号】 特開 2024-107023 (P2024-107023A)
【公開日】 令和 6 年 8 月 8 日 (2024.8.8)
【年通号数】 公開公報 (特許) 2024-148
【出願番号】 特願 2024-82028 (P2024-82028)
【国際特許分類】
A 61 B 17/128 (2006.01)
【FI】
A 61 B 17/128

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 7 年 1 月 31 日 (2025.1.31)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

手術クリップを適用するように構成されたクリップアプライヤであって、
第 1 のハンドル部材と、第 2 のハンドル部材と、を含むハンドルアセンブリと、
前記ハンドルアセンブリから延びるシャフトと、
前記シャフトの管腔に配置される近位部分を備えたコネクタと、

第 1 の顎部材と、第 2 の顎部材と、を含む顎アセンブリであって、前記第 1 の顎部材が
第 1 のピボットピンによって前記コネクタの遠位部分にピボット可能に固定される第 1 の
近位部材を備え、前記第 2 の顎部材が第 2 のピボットピンによって前記コネクタの前記縁
部分にピボット可能に固定される第 2 の近位部材を備え、前記第 1 の近位部材は、前記第
1 のピボットピンの近位であって且つ前記コネクタの長手軸線に対して傾斜した第 1 の近
位延長部を含み、前記第 2 の近位部材は、前記第 2 のピボットピンの近位であって且つ前
記コネクタの長手軸線に対して傾斜した第 2 の近位延長部を含み、前記第 1 の顎部材及び
前記第 2 の顎部材は、開放構成と閉鎖構成との間でピボット回転するように構成された、
前記顎アセンブリと、

30

前記第 1 の近位部材及び前記第 2 の近位部材上を長手方向に移動するように構成された
管状部材であって、前記第 1 の顎部材及び前記第 2 の顎部材を前記閉鎖構成にカム留めす
るように構成された遠位部分を含む、前記管状部材と、

片持ち構成で前記コネクタに固定された近位端と、前記第 1 の顎部材の前記第 1 の近位
延長部と重なり合って前記第 1 の顎部材を前記開放構成に付勢する遠位端と、を備えた第
1 の板バネと、

40

片持ち構成で前記コネクタに固定された近位端と、前記第 2 の顎部材の前記第 2 の近位
延長部と重なり合って前記第 2 の顎部材を前記開放構成に付勢する遠位端と、を備えた第
2 の板バネと、

を有することを特徴とするクリップアプライヤ。

【請求項 2】

前記第 1 の近位部材及び前記第 2 の近位部材は、前記第 1 の顎部材及び前記第 2 の顎部
材が前記閉鎖構成にカム留めされたときに前記管状部材の内側に適合するように構成され
ている請求項 1 記載のクリップアプライヤ。

【請求項 3】

50

前記管状部材の遠位端は、前記板バネの付勢に対抗して前記第 1 の顎部材及び前記第 2 の顎部材を前記閉鎖構成にカム留めするためのカム留め面を含む請求項 1 又は 2 に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 4】

前記第 1 の近位延長部及び前記第 2 の近位延長部は、前記コネクタの前記遠位部分を跨ぐ請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 5】

前記第 1 のピボットピン及び前記第 2 のピボットピンは、前記コネクタの前記長手軸線の両横側に配置されている請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 6】

前記コネクタは、前記シャフトに固着的に固定されている請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 7】

前記第 1 の近位部材及び前記第 2 の近位部材の各々は、前記第 1 の顎部材及び前記第 2 の顎部材のそれぞれの遠位長さよりも短い幅を有する請求項 1 乃至 6 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 8】

前記第 1 の板バネ及び前記第 2 の板バネは、前記開放構成及び前記閉鎖構成の両方において、前記第 1 の近位延長部及び前記第 2 の近位延長部のそれぞれの傾斜面に接触し、前記顎アセンブリを前記開放構成に付勢する請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 9】

前記管状部材の前記遠位部分の直径は、前記管状部材の近位部分の直径よりも大きく、前記管状部材の前記遠位部分は、前記シャフトの遠位方向に延び、前記管状部材の前記遠位部分の近位端は、前記顎アセンブリが前記開放構成にあるとき、前記シャフトの遠位部分に当接するように構成されている請求項 1 乃至 8 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 10】

前記シャフトの前記管腔は、前記管状部材の前記近位部分を摺動可能に受け入れるように構成されている請求項 9 記載のクリップアプライヤ。

【請求項 11】

前記管状部材の移動を作動させるように構成されたアクチュエータをさらに有し、このアクチュエータは、前記シャフトの前記管腔を通して延びて、前記ハンドルアセンブリに接続された作動シャフトを備えている請求項 1 乃至 10 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

【請求項 12】

前記管状部材の近位部分は、アクチュエータの一部を受け入れ、及び／又は前記アクチュエータの 1 又は 2 以上の半径方向突出部を前記管状部材の前記近位部分内の又は前記管状部材の近位部分上の 1 又は 2 以上の近位スロットと噛み合わせるように構成される。請求項 11 記載のクリップアプライヤ。

【請求項 13】

前記第 1 のハンドル部材は、固定され、前記第 2 のハンドル部材は、前記第 1 のハンドル部材に対して前記第 2 のハンドル部材をピボット回転させることにより前記管状部材の長手方向の移動を引き起こすように、ピボットピンにおいてピボット回転可能に移動可能である請求項 1 乃至 12 の何れか 1 項に記載のクリップアプライヤ。

10

20

30

40

50